

白山あじさい物語

～白山公園～



【白山公園ができるまで】

白山神社境内と白山公園の敷地は隣接し、入り組んで分ちがたい観を与えています。それもそのはず、ここは明治24年（1891年）白山神社の敷地を含む約8,250㎡が、市区改正旧設計公園として開園されたのです。これが、文京区で初めてできた公園です。戦後の政教分離政策により、公園と境内は分離され、1,590㎡が公園として残されました。



明治39年ごろの白山公園。写真中央に白山神社本殿が見えます。桜や梅などがあり、その奥には杉の林がありました。ホトトギスの声が聞こえる、木々の茂った夏の納涼に適した場所だったようです。（『東京名所図会』より）

【アジサイとシーボルト】

幕末、オランダから来日したシーボルトが愛したのは、長崎丸山の遊女「其扇」でした。本名楠本滝、「お滝さん」と呼ばれて親しまれていたと言います。やがて故国に帰ったシーボルトは『日本植物誌』を著しますが、その中で長崎のアジサイを「オタクサ」の名で紹介しています。

【ほかにもこんな花たちが・・・】

アジサイの咲く時期には、ほかにも多くの花が見られます。



クロバナロウバイ

アザミ

ヒメヒオウギ
スイセン

スカシユリ

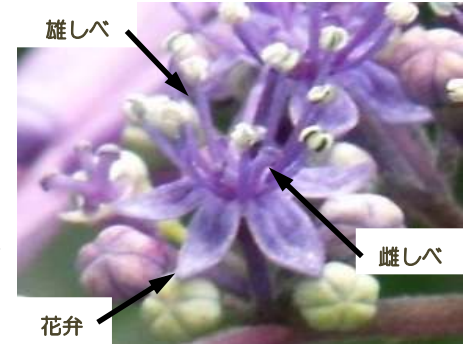


両性花が開いているようすを拡大して見てみましょう。雌しべと雄しべ、そしてその周りがあるのが花弁です。

アジサイは、ガクアジサイから生まれた園芸種とされています。古くは「万葉集」にも詠まれ、江戸時代には陶器の絵柄としても愛されていたようです。名前の由来には諸説ありますが、「^{アツサアイ}集真藍」が語源とされています。

【アジサイの花びらは？】

アジサイは日本原産、ユキノシタ科の落葉低木です。山野に自生するガクアジサイは結実する花の周囲に装飾花が咲きます。これが「額アジサイ」の名前の由来です。花びらは正しくは「萼」で、中央の粒状のものが花です。



【お手入れ】

剪定は、花が終わった7月頃に行います。伸びすぎた枝を剪定し、曲がりかねた枝や、枯れた枝を株元から切り落とします。

アジサイは、挿し木をすると増やせます。6月～7月、新しい葉のある緑色の枝を挿し穂にします。枝が10cm程度なら先端部分だけを使い、それ以上の長さがある場合は、その下2～3節も使います。カッターで節の下1cm程度のところを斜めに切り、大きな葉は半分に切ります。挿し穂ができたなら、1時間ほど水揚げし、土にさします。

《アジサイお手入れカレンダー》

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
剪定												
挿し木												
施肥						追肥				元肥		

白山公園 文京区白山5-31



毎年6月、白山神社・白山公園で「文京あじさいまつり」が開催されます。

交通：【都営三田線】白山駅A3出口から徒歩3分

【文京区コミュニティバス B-ぐる】白山駅から徒歩3分

開園時間：いつでも開園

問い合わせ先：文京区土木部 みどり公園課

03-5803-1252

b451500@city.bunkyo.lg.jp

*このパンフレットは、

文京区みどり公園課のホームページで閲覧・印刷できます。

<http://www.city.bunkyo.lg.jp>